

としょかんぼう

Tohoku Fukushi University Library News



耐震工事終わりましたの

34号

Table of Contents

ブックレビュー	(社会福祉学科教授 阿部一彦)
研究余瀝	(図書館長 鍛代敏雄)
鼎ダ〜ン	(TFUKōhōWG)
図書館エトセトラ	(情報福祉マネジメント学科 三木弘和)
カフェろっけんしょう	(図書館 八巻千穂)
図書館 Before★After&編集後記	



人生の意味について考えるときに 読みたい『夜と霧』

総合福祉学部 社会福祉学科
教授 阿部一彦

今回取り上げる『夜と霧』は、人生に大きな決断を迫られたときや人生の意味について考えるときなどに繰り返し読んでみたくなる本だ。『夜と霧』というのは日本で出版するときにつけられた表題で、最初に出版された時には『心理学者、強制収容所を体験する』という表題で、著者V. E. フランクルが自らの体験にもとづいて解放後まもなく数日で書き上げたといわれている。

著者フランクルは、ユダヤ系病院の神経科部長として働いていたが、ナチスにより病院が閉鎖され、妻や父母とともに収容所に送られた。その後2年間ぐらいは、家族とも会えたりして比較的緩やかな収容所生活を送った。

しかし、突然、アウシュビッツ強制収容所に送られ、ガス室送りは免れたものの、それまで大事に執筆していた学術書の原稿も含めすべてのものを奪われて、119104 という識別番号の土木作業員として、すぐに次の強制収容所に移送されてしまう。そこから『心理学者、強制収容所を体験する』として、フランクルの体験した過酷な強制収容所生活とともに生活した人々とのかわりなどが描かれている。

フランクル自身はライフワークと考えていた学術書の草稿を奪われ、わずかしき与えられない食事による空腹と過酷な土木作業との繰り返しの生活を強いられるなど、絶望ともいえる境遇に置かれたが、自分の人生を諦めることなく、生きる意味をみつけて毎日の生活に耐え続けた。そして、美しい自然や夕日に感動したり、ユーモアを失わなかったり、精神の自由や内面の豊かさを保ち、人間らしいふるまいを失わなかった。また、過酷な生活の中で回りの人々の思いや対応について考えたり、生きる意味についてアドバイスしたりしている。だが、生きる希望を持てなくなった人は病死したり、自殺したりした。

その後、危険だと友だちが懸命にとめたにもかかわらず、意味のある死を念頭に医師として発疹チフス患者が集まっている収容所へ志願して移動した。そして、発疹チフス病棟で亡くなった患者から遺贈された貴重な数十枚の小さな紙切れに、アウシュビッツで失った学術書の草稿を速記記号で再現する作業に取りかかっている。おそらくそれまで考案していた学術的理論などは、過酷な収容所生活の体験をふまえて、洗練され完成度が高まったのではないかと考えられる。フランクフルトによると、人生にはその人ならではの生きる課題があり、その課題を見だし、正しく応えていくことが大事だと説く。

その他にも、もっと取り上げたい箇所が数多くあるが、紙面の都合によって記載できないのが残念だ。

私の場合にも、人生の岐路に際して悩み続けたときに、この本を読んだことによって自分らしい進むべき道を見つけることができた体験がある。自分自身が求められていることに気づくために、この本が道標の一助になった。東日本大震災で被災した地域でも読まれたと聞く。おそらくコロナ禍でページをめくってみた人も多いと思う。

これから、さまざまな人々にかかわる仕事に就くことを考えている学生の皆さんに読んでいただきたい。そして、自分や家族に関してのことだけではなく、将来に不安を抱いている人々の悩みをお聴きし、ともにその人らしい生活の在り方についてご本人に考えていただくための寄り添う支援を行うときに、この『夜と霧』を読みかえすことが大きな力になるだろう。

『夜と霧』 新版

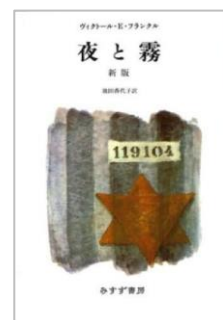
みすず書房 2002

ヴィクトール・E・フランクフル著

池田香代子訳

所在：学生閲覧図書

請求記号：946.7/フラ/学関



余研
瀝究

蘭庭明玉の謎

伊達家と石清水八幡宮

図書館長 鍛代敏雄

仙台北山、曹洞宗の名刹・輪王寺は、伊達家九世政宗（1353～1405）の室・蘭庭明玉（1356～1442）の所願をもって、孫の持宗（1394～1469）によって伊達郡梁川城下に創建された。伊達藩の正史『伊達正統世次考』（1722年成立）政宗の嫡子氏宗（1371～1412）の項に、

母は紀氏。石清水善法寺通清法印の女なり。後室となりて落飾して蘭庭明玉禅尼と号す。嘉吉二年壬戌七月廿日卒す。年八十七。輪王寺殿と号す。〔輪王寺記録等に見へたり〕（中略）公母すなわち義満公の姨なり。（原漢文）（図1）

とあり、蘭庭禅尼は善法寺通清の娘、三代將軍足利義満の叔母と信じられてきた。

伊達氏研究の第一人者、小林清治氏が執筆された『国史大辞典』（吉川弘文館、1988年）「伊達政宗」、『朝日日本歴史人物事典』（1994年、西尾和美氏）や『講談社日本人名大辞典』（2001年）の「蘭庭明玉」の項は、いずれも『伊達正統世次考』を典拠とする。かつて、東北大学教授・福島県立博物館館長などを歴任された高橋富雄氏は、著書『陸奥伊達一族』（新人物往来社、1987年、吉川弘文館、2018年復刊、31頁）で、「政宗は將軍の義叔父」「南朝などよりはるかに有効な錦の御旗を、政宗は公方に見出す」と指摘された。最近では、福島大学名誉教授・伊藤喜良氏が『伊達一族の中世』（吉川弘文館、2021年、156頁）の中で、鎌倉府にたいする政宗の反乱について、妻が義満の叔母であった「縁浅からぬ関係」による「幕府側からの何らかの支援」を想定されている。

いわき市の飯野八幡宮には、嘉暦2年（1327）の社務検校通清年貢請取状が収蔵されており、通清と南奥とのパイプがないわけではない（拙稿「石清水八幡宮領陸奥国岩城郡好嶋庄」『東北福祉大学芹沢銑介美術工芸館年報』11号、2020年）。しかし、ズバリいえば、上の父子関係は創作ないしは改竄されたものと考えて間違いない。『石清水八幡宮史』首巻「祠官家系図（善法寺）」によれば、善法寺尚清（後嵯峨院の皇胤）の嫡男通清は永仁4年（1296）生、暦応4年（1341）没とある。したがっ

て、蘭庭は通清没後の生まれとなり、親子関係の齟齬は明白だ。これまでどうして検証されなかったのか、不思議でならない。まるで歴史の陥穽に落ちたかのような印象をうける。

南山城八幡に鎮座する石清水八幡宮は、伊勢神宮に次ぐ天下の宗廟と称された。善法寺（紀姓）通清の妻智泉聖通（1309～88）は、順徳天皇四世・四辻善成（著書『河海抄』）の姉、尼五山通玄寺（曇華院門跡）の開基である。二人の間には、後円融天皇の国母・仲子（広橋家養女、後光厳院后・崇賢門院）、義満の実母・良子（源幸子＜渋川義季の娘、二代将軍義詮室＞の養女、同室）がある。蘭庭はこの良子の妹と伝えられてきた。江戸幕府が編纂した『寛政重修諸家譜』（1812年成立）にも政宗室は通清の女子と見える。地方の大名・小名にとって、姻戚を結ぶ権門（家柄）と血筋は申し分ない。

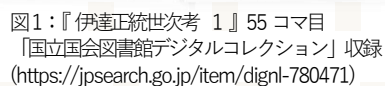
醍醐寺三宝院賢俊を得度戒師とした通清の次男・別当昇清（1326～64）は、足利尊氏・義詮から御師（祈祷僧）を許され、善法寺家は代々、将軍家の武家祈祷を任された（拙著『八幡さんの正体』洋泉社、2018年、181頁）（図2）。昇清の嫡男、新任社務の了清（1348～84）宛て、永徳2年（1382）10月15日付けの三代鎌倉公方足利氏満書状（『大日本古文書 石清水文書之六』52号）から、石清水検校と鎌倉公方との師檀関係がわかる。また、政宗の父・宗遠（1323～85）が大檀越として納めた永徳3年6月1日付けの成嶋庄八幡宮拝殿造立棟札が残っている（米沢市上杉博物館編集『伊達氏と上杉氏』2016年、14頁）。偶然かも知れないが、時期的に重なっており興味深い。ちなみに、政宗の後継者氏宗（蘭庭16歳の子息）は、公方氏満の「氏」の偏諱を得ていた。

想像の翼を大きく広げてみれば、蘭庭の実父は善法寺昇清ではないだろうか。39歳で不慮の死（「祠官家系図（善法寺）」）を遂げた後、9歳の蘭庭（了清の妹）は、長命な祖母・智泉聖通（昇清・了清の後見人）の養女になったと考えたい。とすれば、蘭庭禅尼は義満の叔母との「輪王寺記録」も合点がいく。

輪王寺を創建した持宗（氏宗の嫡子）は、梁川八幡宮を造営している。藩祖政宗（1567～1636）が、石清水の勧請神を拝受し、御分霊を仙台に遷座したとする覚書（仙台市博物館所蔵「木村宇右衛門覚書」）などに鑑みると、やはり伊達家と石清水八幡宮をめぐる浅からぬ縁が感じられるのである。

〔伊達家・善法寺家関係系図〕

```
graph TD; A[後鳥羽天皇] --> B[順德天皇]; A --> C[土御門天皇]; B --> D[善統親王]; D --> E[尊雅王  
(四辻宮家)]; E --> F[四辻善成]; E --> G[智泉聖通  
(通玄寺・曇華院)]; C --> H[嵯峨天皇]; H --> I[尚清  
(善法寺家)]; I --> J[通清]; G --> K[尊氏  
(足利)]; G --> L[紀良子  
(源)]; G --> M[昇清]; K --> N[義詮]; N --> O[義満]; L --> P[了清]; P --> Q[宋清]; M --> R[崇賢門院  
(広橋仲子)]; R --> S[後光厳天皇]; R --> T[後円融天皇];
```



所在：学生閲覧図書
請求記号：172/キタ/学閲



蔵書印データベース (国文学研究資料館提供)

すごいデータベースなんだけど紹介が難しい！
とりあえず Japan
-Knowledge で蔵書印とは何かを調べてみよう。

(※1)



JAPAN SEARCH

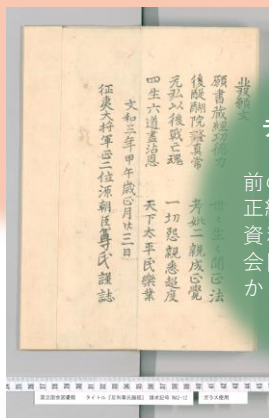
2 千万件以上のデータと連携しているすごいプラットフォーム。著作権の状態がわかりやすく便利。

(※2)



JapanKnowledge Lib

辞書事典類を多数収録。とりあえずコレで調べるとよいよ。次の鼎談記事でもとりあえずコレを使っています。便利！“鼎談(ていだん)”の意味もこれで調べよう。



国立国会図書館 デジタルコレクション

前の記事に出てきた『伊達正統世次考』など、貴重な資料がたくさん！国立国会図書館が運営しているから安心安全！

(※3)



新聞記事データベース

本学では河北、朝日、毎日、読売を契約中。キーワードでニュースが出てくるから便利！

みんな大好きデータベース

※1 蔵書印 ID : 03307

蔵書印文：江月照松風吹

(http://dbrec.nijl.ac.jp/CSDB_3416)

「国文学研究資料館蔵和古書目録データベース」収録

※2 アンドレア・アッピアニ, Andrea Appiani 『ルーヴル宮殿でアテナ像の前に立つナポレオン』

(https://jpsearch.go.jp/item/tfam_art_db-6188)

「東京富士美術館収蔵品データベース」収録

(JAPAN SEARCH から検索できます)

※3 足利尊氏願經

(<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2543394/45>)

「国立国会図書館デジタルコレクション」収録



早速ですが本題に入ります。

マリトッツォが何かをご存じですか？

なんか丸いふわふわにクリームを挟んだお菓子？本当にそれがマリトッツォですか？それだったらシュークリームもマリトッツォということになりませんか？バターロールにクリームを挟んでもOK？丸くないといけないのですか？あとそのクリームって生クリームですか？“マリトッツォ”ってどういう意味？急に日本で流行ったのはどうして？

つい詰問してしまいました。すみません。今年、コンビニ各社でも発売され瞬く間に日本を席卷したスイーツ『マリトッツォ』。しかし我々東北福祉大図書館広報ワーキンググループTFUKOHOWGの3人は誰一人としてこのスイーツを食べたことがなく、「流行って・・・た？・・・よね??」状態。情報に敏感でなくてはいけない図書館員として危機感を感じた我々はマリトッツォが何かを調べることにしたのです!!

第1回

マリトッツォってなんだ??

ダイジェスト版

まずはサクッと辞書事典で調べること。図書館契約データベースの Japan Knowledge Lib に「マリトッツォ」と入力すると・・・0件。想定内です。こんな時はいったんWikipediaでマリトッツォのスペルを確認します。そして記載のあった「maritozzo」でもう一度 Japan Knowledge Lib で調べると・・・1件。小学館の伊和中辞典（第2版1999）がヒットしました。そこには「マリトッツォ “チシブドウ入り菓子パン”」と。むむ？この記述だとそれはレーズンパンでは？クリームはなくてもいいの？

さっそく混乱する我々ですが、この辞典の発行は1999年。もしかしてこの頃はただのレーズンパンで、生クリームを挟むようになったのは近年の変化した姿なのでしょうか。確かにパンケーキも生クリーム盛り盛りになったのはここ数年ですしね。その可能性はあるかもしれませんが、しかし、コンビニなどで見たマリトッツォにはレーズンなんて入っていたかしら??と、記憶と情報の合致を試みるものの、なんかピンとこず。そもそも食べたことがないのでその記憶も記憶と呼べるものですらな

いことに気付いた我々は、いったん立ち止まり自分の目と舌でマリトッツォが何なのかを確かめようと、試食会を行ったのです！

はじめての
マリトッツォ



はいはい、これは・・・



あー、なるほど・・・



パンに生クリームを挟んだものですね。



うん。



本当にそれだけのものだね。



ケーキというよりフルーツサンドの仲間でしょうか。



(胃に重くて) 一個は食べきれないかも。



なんかスカスカのパンだね。みっちりしていない。



これは専用のパン？



うーん・・・



これ、みんないつ食べるの？



おやつ？・・・って感じもあんまりしないですね。



Web の情報だとイタリアでは朝にカフェで食べるらしいです。



本当！？朝からこれイける？？



まあ、私は無理ですけど。



なんか、想像通りだけど想像と違うな。

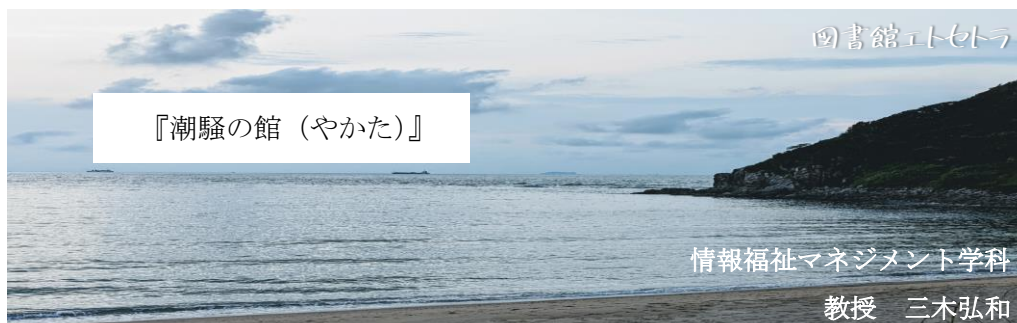
すみません。実際に食べてみるパンと生クリーム

web につづく

完全版は図書館のHPで見つね

この情報：書籍や雑誌等で信頼できかを探ります。Web では





図書館エトセトラ

『潮騒の館（やかた）』

情報福祉マネジメント学科

教授 三木弘和

長く壮絶な大学浪人時代、図書館は紛れもなく私の唯一の解放区だった。高校時代の私は、両親や兄弟と距離を置き、級友や社会とも関係を断ち、学業への意欲すら完璧に失う典型的な落ち淫れであった。当前の様に成績は落ち、学年550名余中ブービー賞という不名誉な記録を打ち立てた駄目男だった。己が因果を理由に頑強な壁を築き上げ、偏狭な殻に閉じ籠る事でしか身を保てなかった^{せいしゅん}凄春の時代。晴れて浪人生活に突入する。福岡市内の県立高校には予備校が併設されていた。親の思惑を他所に、入学金は郵便局に貯金し、朝から電車で街中の図書館に通う事を決断する。鬱屈する魂は、偏屈な決断に固執する事でしか目標を成就できない、との頑なな思い込みを支えていた。休館日以外は開館から閉館まで年間350日程、1日15時間の独り善がりの壮絶な受験勉強が始まった。当時、家庭にはクーラーがない時代。夏休みなど涼しい図書館は朝から長蛇の列で、昼食に出ると再び並ばねばならず、館内の大便所で昼飯を食らった。年に3日程、館内の換気扇の音がどうしても潮騒に聴こえ、辛抱たまらずバスに乗って玄界灘の海に詣でた。毎日200本以上も髪毛は抜け落ち、心身ともに極限状態の浪人生活が、その後も3年間続く事になる。年一発勝負の3浪目、受験の1ヶ月前から体調を壊した。受験会場の休憩時間、長椅子に寝転んでレモンをかじりながら忘我状態で3日間を終えた。精も魂も尽き果てた帰宅電車の陽だまりの中、「4浪かぁ」と呟く。何の期待も無い合格発表で、自分の受験番号を見つけた。長く口も聞いていなかった母親に電話する。喜ぶ声を遠くに聞きながら、通り慣れた図書館に足が向いた。その日も図書館の潮騒はどこ迄も優しく、疲労と脱力の私を迎えてくれた。「ありがとね…」の一言を残し、夕暮れの早春の海に向かった。

世の中に存在する文学賞は数知れず。芥川賞に直木賞、ノーベル文学賞やブッカー賞と様々である。そこで、私たちに身近な東北という地域に根差した文学賞を数回にわたり紹介しようと思う。この機会に‘腕試し’なんていかがでしょうか？



「さきがけ文学賞」



「魁」を漢字で書くと難しいけれど、ひらがなの「さきがけ文学賞」は目にもやさしい。1983年に秋田県北部、旧鷹巣町（現在、北秋田市）出身の直木賞作家、渡辺喜恵子さんが、‘秋田の文学振興のため’に寄付金を秋田魁新報社に寄託したことからはじまった文学賞である。1984年に第1回目を開催してから、今年で38回目をむかえた「さきがけ文学賞」は、国内外から未発表の小説を公募、毎年250件程度の応募がある。近年、秋田県出身の受賞者がいないとのこと、残念！入選（最高賞）した作品は、秋田魁新報上に掲載されるが、新聞に自身の小説が連載されるなんて、文筆家にとってはまさにドリーム。現在は、財団法人「さきがけ文学賞渡辺喜恵子基金」が運営している。

「福島県文学賞」



「福島県文学賞」がスタートしたのは、戦後すぐの1948年。“文化の日”がこの年から制定されたのを機に、「文学を通して県民が心に潤いと安らぎを得ることができるよう」との願いも込められて創設された。今年で74回目をむかえる歴史ある文学賞である。現在、「小説・ドラマ」、「エッセー・ノンフィクション」、「詩」、「短歌」、「俳句」の5部門からなり、対象は県内在住者や県内の学校・事業所に在籍・勤務する者として（東日本大震災により県外へ避難している県出身者も含む）、より県文学の振興に特化した文学賞である。ちなみに記念すべき第1回目の小説賞の受賞者は、「月光仮面」や森進一の「おふくろさん」の作詞家として知られる川内康範である。

（福島民報社と福島県教育委員会が主催）

図書館 八巻千穂

～図書館 Before★After～

図書館では利用者の皆さんが安心して利用出来るよう、7月から10月にかけて館内の耐震補強と補修の工事を行いました。それに伴い、使い易さも考慮して館内の什器の配置などを少し変更しましたのでご紹介します。

2階、新着雑誌コーナー奥の閲覧席が増えました。(写真①) 座ってゆっくりと記事を読むことが出来ます。雑誌や新聞は貸出しが出来ませんが、コピー機が近いので必要な箇所を複写するのにも便利です。但し、最新号は複写が出来ませんのでご注意ください。

3階の絵本・紙芝居コーナーには授業や実習などに使える資料が充実しています。余裕を持って資料を選ぶことが出来るよう、書棚を増やし小型のソファを置きました。(写真②) 子どもの頃の思い出の絵本や紙芝居を眺めながら、のんびり過ごしてみるのもおすすめです。

1階、図書館正面入り口から向かって左側にあるブラウジングルームでは、現在11時から14時の間、昼休み時間の混雑緩和のため臨時食事場所として開放しています。天気の良い日は日差しが気持ち良い空間ですのでご活用ください。



写真①



写真②



写真③

また、これまで図書館2階にあった洋雑誌書庫が2号館1階に移転しました。(写真③) バックナンバーは図書館職員による出納となります。申込みの時間帯によっては次の日の利用になることもありますので、利用希望の際には事前に3階カウンターまで申込みください。

コロナ禍の影響で利用に一部制限がある状態ではありますが、皆さんの調査、学修に役立つサービスを提供していますので、少しでも新しくなった図書館には是非をお運びください。

～編集後記～

前号からリニューアルしたとしょかんぼう、今号はページ数が増えました！ブックレビューに阿部一彦先生、図書館エトセトラに三木弘和先生、研究余瀝に鍛代敏雄先生からご寄稿いただき、とても読み応えのある内容になりました。三木先生からは字数の関係で本文から割愛したとのことでしたが、後日談で「大学は主席合格し、入学式で総代を任されました。」という朝ドラ顔負けのドラマチックなお話を聞かせていただきました。まさに「事実小説より奇なり」ですね。お忙しい中ご協力いただきありがとうございました。

ふと見上げるとそこに青空が！今回の表紙は図書館内で撮った写真ですが、皆さんはどこか分かりますか？「図書館 Before★After」、以前と比べてかなり変わった場所もありますので、写真の答え合わせも兼ねて図書館に来てくださいね。(図書館 齊藤由理香)



図書館 HP